

取組の 카테고리 1

評価視点	現在進行中の取組の方向性が正しいかを評価
取組名	1-① 北九州モデルの実践効果を高めるための機器の開発・改良等 1-② 介護ロボット等導入促進のためのリース等を活用した仕組みづくりの検討 1-③ 市内特別養護老人ホームへの北九州モデルの展開 1-④ 施設系介護サービスにおける介護ロボット等を活用した職場改善の推進

<p>取組名</p>	<p>北九州モデルの実践効果を高めるための機器の開発・改良等</p>																										
<p>目的</p>	<p>介護の間接業務の自動化を促進するセンサーや ICT を含む機器間連携や、感染症予防に資する「遠隔・非接触」の介護の支援といった、北九州モデルの実践効果を高めるための機器の開発・改良に取り組む。</p>																										
<p>内容</p>	<p>介護ロボット等開発・実用化推進事業補助金交付要綱に基づき、公益財団法人北九州産業学術推進機構へ補助金を交付して以下の支援を行う。</p> <p>①北九州市内の大学、企業の介護分野の研究開発費用を補助</p> <p>②①とあわせた研究成果の実用化支援</p> <p>③介護ロボット等の開発に取り組む市内企業への相談対応、技術的助言</p> <p>④国や研究機関の介護ロボット等関連助成金事業等の情報提供や申請支援</p>																										
<p>令和 3 年度 進捗状況</p>	<p>支援実績</p> <p>(1)補助金採択状況(3件)</p> <table border="1" data-bbox="488 945 1422 1211"> <thead> <tr> <th>開発件名</th> <th>申請企業名</th> <th>共同研究機関</th> <th>補助金額 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>IOT による介護施設、医療現場での排泄対応作業の軽減化とクラウドサービスの開発と事業化</td> <td>ひびきの電子株式会社</td> <td>国立研究開発法人産業技術総合研究所九州センター</td> <td>3,000</td> </tr> <tr> <td>コンプライアントメカニズムから発想を得た柔軟格子構造による関節装具の開発</td> <td>株式会社有菌製作所</td> <td>九州工業大学</td> <td>3,000</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="488 1223 1422 1386"> <thead> <tr> <th>開発件名</th> <th>研究代表者</th> <th>補助金額 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>どこでも安定して着座姿勢の取れるウェアラブルチェアの実用化開発と検証</td> <td>学校法人早稲田大学 情報システム研究センター 教授 田中 英一郎</td> <td>755</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2)委託状況(1件)</p> <table border="1" data-bbox="488 1451 1422 1585"> <thead> <tr> <th>開発件名</th> <th>委託先</th> <th>委託金額 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>トイレ介助時の利用者の下衣脱着に使用する立位保持</td> <td>リーフ株式会社</td> <td>2,000</td> </tr> </tbody> </table>			開発件名	申請企業名	共同研究機関	補助金額 (千円)	IOT による介護施設、医療現場での排泄対応作業の軽減化とクラウドサービスの開発と事業化	ひびきの電子株式会社	国立研究開発法人産業技術総合研究所九州センター	3,000	コンプライアントメカニズムから発想を得た柔軟格子構造による関節装具の開発	株式会社有菌製作所	九州工業大学	3,000	開発件名	研究代表者	補助金額 (千円)	どこでも安定して着座姿勢の取れるウェアラブルチェアの実用化開発と検証	学校法人早稲田大学 情報システム研究センター 教授 田中 英一郎	755	開発件名	委託先	委託金額 (千円)	トイレ介助時の利用者の下衣脱着に使用する立位保持	リーフ株式会社	2,000
開発件名	申請企業名	共同研究機関	補助金額 (千円)																								
IOT による介護施設、医療現場での排泄対応作業の軽減化とクラウドサービスの開発と事業化	ひびきの電子株式会社	国立研究開発法人産業技術総合研究所九州センター	3,000																								
コンプライアントメカニズムから発想を得た柔軟格子構造による関節装具の開発	株式会社有菌製作所	九州工業大学	3,000																								
開発件名	研究代表者	補助金額 (千円)																									
どこでも安定して着座姿勢の取れるウェアラブルチェアの実用化開発と検証	学校法人早稲田大学 情報システム研究センター 教授 田中 英一郎	755																									
開発件名	委託先	委託金額 (千円)																									
トイレ介助時の利用者の下衣脱着に使用する立位保持	リーフ株式会社	2,000																									
<p>目標</p>	<p>令和3年度から令和5年度にかけて、現場ニーズに沿ったロボット関連技術の開発・改良に取り組む市内企業や大学等を支援し、北九州発のロボットの製品化実現を目指す。</p>																										

取組名	介護ロボット等導入促進のためのリース等を活用した仕組みづくりの検討
目的	<p>介護人材不足の対策としては、介護ロボット等の活用が選択肢の一つであるが、介護ロボット等は購入費用が高額のものも多く、導入が進んでいない。</p> <p>本取組は、購入以外のリースやサブスクリプション方式等を活用し、介護施設が介護ロボット等を導入しやすい仕組みをつくることを目的とする。</p>
内容	令和3年度北九州モデル導入支援を行った市内特別養護老人ホーム5施設を対象に「介護ロボット・ICT 機器導入のためのリース活用等」についてニーズ調査を実施
令和3年度 進捗状況	<p>○調査方法 ヒアリング調査</p> <p>○調査結果</p> <p>①リースについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車両や記録ソフト、センサー系についてリース活用実績あり ・金利分が負担増になるため高額(数百万円)でなければリースのメリットを感じない ・導入の都度、異なる会社でリースを組むと煩雑になる <p>→決まったリース会社と付き合いのある施設はリース活用について抵抗は少ない模様</p> <p>②補助金について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助金の制度は知っていても、申請までの手続き・スケジュールがタイト ・補助金制度情報を探ることが負担 <p>③機器やICTの導入について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の施設に適した商品を選定することが難しい ・施設内のICT化を進めるための取組みについて、都度聞きながら進められるような指南役がほしい
目標	<p>○ニーズの深掘り</p> <p>○仕組の具体化に向けて関係者の選定・協議(令和4年度)</p> <p>○仕組立ち上げ準備(令和5年度)</p>

取組名	市内特別養護老人ホームへの北九州モデルの展開
目的	<p>○本市は政令指定都市で最も高齢化が進んでおり、介護人材不足への対応が喫緊の課題となっている。</p> <p>○本市では平成28年度からの実証をもとに、ICT・介護ロボット等を活用した介護現場の業務改善モデルとなる「北九州モデル」を構築した。</p> <p>○本取組は、市内の介護事業者に対して、「北九州モデル」の導入支援を行い、介護の質の維持・向上、職員の負担軽減及び生産性向上を促進させることを目的とする。</p>
内容	<p>○対象 特別養護老人ホーム</p> <p>○支援実施者</p> <p>①北九州市介護ロボット等導入支援・普及促進センター (麻生教育サービス株式会社) 【役割】ICT・介護ロボット等導入提案、業務オペレーション変更支援 等</p> <p>②株式会社メディヴァ 【役割】タイムトライアル調査の実施・とりまとめ、全体マネジメント 等</p> <p>○主な実施内容</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; width: 45%; background-color: #e0f2f1;"> <p style="text-align: center; background-color: #00796b; color: white; padding: 5px;">調査フェーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●タイムトライアル調査 ●調査結果の集計・分析 ●課題の抽出 ●解決策の方向性整理 等 </div> <div style="font-size: 2em; margin: 0 10px;">➔</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; width: 45%; background-color: #e0f2f1;"> <p style="text-align: center; background-color: #00796b; color: white; padding: 5px;">実践フェーズ(施設主体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ICT・介護ロボット等の選定・活用 ●アウトソーシングの検討・活用 ●業務オペレーションの変更 ●人員配置の変更 等 </div> </div>
令和3年度 進捗状況	<p>○支援先 特別養護老人ホーム5施設</p> <p>○成果例</p> <p>【<u>インカム・見守り支援機器の活用(夜勤帯)</u>】 インカムの活用による職員間の情報共有、見守り支援機器の導入等によって、人員配置の最適化(Δ1名)を実現し、夜勤帯の業務時間が約38%減少した。</p> <p>【<u>業務オペレーションの変更(入浴介助)</u>】 使用物品の見直しや法人内別施設の職員との連携強化等によって、入浴介助時間が約30%減少した。</p> <p>【<u>アウトソーシング等の活用(洗濯業務)</u>】</p>

	洗濯業務(一部)のアウトソーシングや業務オペレーションの変更によって、業務時間が約34%減少した。
目 標	○支援数 令和4年度:5施設 令和5年度:5施設

取組名	施設系介護サービスにおける介護ロボット等を活用した職場改善の推進			
目的	<p>○本市は政令指定都市で最も高齢化が進んでおり、介護人材不足への対応が喫緊の課題となっている。</p> <p>○本市では平成28年度からの実証をもとに、ICT・介護ロボット等を活用した介護現場の業務改善モデルとなる「北九州モデル」を構築した。</p> <p>○業務改善を効果的に実践するため、介護ロボット等を活用できる専門人材を育成する。</p>			
内容	○介護ロボットマスター育成講習の開催			
		初級	中級	上級
	受講者の到達レベル	職場において自分で機器等を使用するのに必要な知識等を習得するレベル	導入した機器について、自分の職場に適した活用マニュアルを作成できるスキルを習得するレベル	機器等の導入・活用を促進し、職場全体の作業効率を高めるノウハウを習得するレベル
	対象者	全職員	・初級講習受講者 ・介護主任・ユニットリーダークラス (勤続年数がおおむね3年以上)	・中級講習受講者 ・施設長、ホーム長などの管理者クラス (勤続年数がおおむね5年以上)
	回数	2時間40分	3時間	2時間
	定員	50名	50名	20名
令和3年度進捗状況				
		初級	中級	上級
	開催時期	1/11～1/28	1/24～2/10	2/7～2/25
定員	44名	56名	65名	
目標	○介護ロボットマスター育成講習を継続実施する。			

取組のカテゴリー 2

評価視点	取組の成果を、今後展開していく方向性が正しいかを評価
取組名	2-① 換気対策を含む施設内の浄化等に関する課題及び有効策の検討

取組名	換気対策を含む施設内の浄化等に関する課題及び有効策の検討
目的	コロナ禍における先進的介護の付加価値を高める新たな展開として、介護事業所における感染症のリスクを減らすために効果的な換気方法の研究を行う
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 アンケートの実施 2 実証の実施 3 実証協力施設への個別説明会の実施 4 介護事業所関係者対象ウェビナーの実施 5 ガイドラインの作成
令和3年度 進捗状況	<p>本研究にあたっては、検討会を立ち上げ、産業医科大学を中心に進める。 メンバー：産業医科大学、北九州市立大学、北九州設備設計監理協会、FAIS、市（建築都市局、保健福祉局）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 アンケートの実施 <p>市内高齢者介護事業所 279 施設を対象としたアンケート「高齢者介護施設における換気対策に関する実態調査」を実施。</p> <p>(1) 結果（調査票回収率 39.4%）</p> <ol style="list-style-type: none"> ①換気対策は実施しているが、その方法に不安を残している施設が約 1/4 あり。 ②主な換気方法は、窓や出入口の開放といった自然換気が最多。 ③機器類を用いた換気は 62.2%の施設で実施。うち、85.6%で空気清浄機を活用。ただし、そのフィルターの種類を認知していない施設が約半数あり。 2 実証の実施 <p>(1) 実証内容</p> <p>施設：北九州モデル構築に携わった5施設と過去にクラスターが発生した1施設</p> <p>回数：季節的要因を考慮するため、夏・秋・冬の3回実施。</p> <p>内容：施設の構造に応じて、食堂や医務室等のそれぞれの場所ごとの効果的な換気方法について検証するため、以下3パターンの方法を組み合わせて実施。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①二方向換気 ②二方向換気とサーキュレーター等による空気の流れの形成 ③空気清浄機の活用

	<p>また、あわせて介護従事者へ負担をかけない換気方法について、研究を行った。</p> <p>①30分間全開（定期的な窓開閉の負担あり） ②5分間全開 ③3分間全開 ④常時10cm開放</p> <p>(2) 実証結果</p> <p>①二方向換気によるCO2濃度の低下 ②空気清浄機（HEPAフィルター）によるエアロゾル量の低下 ③定期的に数分間全開にするよりも常時10cm開放の方が効果大 ④気流が直接当たると体感温度が下がるため、自立体動不能な入居者へ配慮を行うことが望ましい ⑤換気中に窓を閉めてしまう利用者への対応が必要</p> <p>3 実証協力施設への個別説明会の実施 実証協力施設に対して、実証結果及び各施設構造の特徴をふまえた効果的な換気方法について、個別に報告会を開催した。</p> <p>4 介護事業所関係者対象ウェビナーの実施 介護事業所に向けたウェビナーを開催し、換気の必要性、換気方法のポイント等の周知を行った。</p> <p>5 ガイドラインの作成 実証結果から明らかになった効果的な換気方法のポイントをまとめたガイドラインを作成。</p> <p>○主な掲載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・換気の必要性 ・換気方法の有効性を数値で確認することの必要性 ・介護従事者へ負担をかけない換気方法 ・入居者への配慮
目 標	<p>1 介護事業所へ向けてガイドラインの周知を行う 市内介護事業所へ郵送による配布を行う</p> <p>2 介護事業所に対して巡回点検を行う保健所職員へ向けてガイドラインを提供する</p> <p>3 介護従事者へ負担をかけない換気のタイミング通知する機器の開発をFAISに促す</p>

取組のカテゴリー 3

評価視点	今後の取組の方向性が正しいかを評価
取組名	3-① 介護記録データの分析による予測型介護に関する研究 3-② 国家戦略特区における規制の特例措置の効果検証（令和4年度実証） 3-③ 北九州モデル（従来型多床室施設バージョン）の確立

取組名	介護記録データの分析による予測型介護に関する研究
目的	特別養護老人ホームでの積極的なターミナルケアを増やすため、入居者の体調変化につながる兆候を適切に判断できる仕組みづくりを行うための基礎調査として、その兆候とそれを察した時期を明らかにすることを目的とする。
内容	入居者の体調変化につながる兆候に関し、適切に判断できる仕組みづくりに向けて文献調査等による研究を行う。
令和3年度進捗状況	<p>○文献調査内容</p> <p>特別養護老人ホームに勤務する看護職員が、入居者に特別養護老人ホーム内の死亡原因のうち上位7つ(※)(老衰、心不全、肺炎、がん、脳卒中、呼吸不全、腎不全)につながる体調変化が生じていると判断した兆候とそれを察した時期について研究を行った。</p> <p>(※)厚労省 HP 掲載「特別養護老人ホームにおける終末期の医療・介護に関する調査研究」報告書抜粋 (https://www.mhlw.go.jp/shingi/2003/12/s1222-4d34.html)</p> <p>○文献調査実施者</p> <p>産業医科大学 産業保健学部 成人・老年看護学 准教授 長 聡子</p>
目標	<p>○目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 数値で表現されていない兆候のデータ化 (データに基づいて体調変化につながる判断が可能となることで、看護師の経験値や勘による差の解消・サインの見落とし防止等を図る) 2 データ測定に必要な機器の改良提案 <p>○目標到達のための今後の方針</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 協力施設へ過去利用者データの提出依頼及び看護職員へのインタビュー調査の実施(令和4年度) 2 データの分析による体調変化につながる指標の仮説立案(令和4年度) 3 仮説検証のための実証実施(令和5年度)

<p>取組名</p>	<p>国家戦略特区における規制の特例措置の効果検証(令和4年度実証)</p>						
<p>目的</p>	<p>国家戦略特区による特例措置を活用することで、介護ロボット等の導入実証を行い、先進的介護「北九州モデル」を構築するに至った。</p> <p>一方で、「隣接する2つのユニットの共同生活室を一体的に利用できる」とした特例措置そのものによる具体的な効果は検証できていないため、特例措置を市内外に展開できないでいる。</p> <p>特例措置による効果を確認し、「北九州モデル」とともに普及することで、介護現場のさらなる生産性向上が期待でき、国の規制緩和の促進も期待できることから、効果検証のための実証を行う。</p>						
<p>内容</p>	<p>特例措置の条件下で、歩行支援ロボット等の有効性を確認するための実証を行い、ケアの質への影響や介護ロボットの開発促進への寄与の程度を検証することで、特例措置の効果を検証する。</p> <p>また、歩行支援ロボット等の活用により感染症対策としての有効性も期待されることから、感染症予防に資する介護ロボットの活用方法を検討する。</p> <p>●主なスケジュール</p> <table border="1" data-bbox="486 1093 1406 1301"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実施予定内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和4年度</td> <td>○国家戦略特区における特例措置を活用した効果の実証</td> </tr> <tr> <td>令和5年度</td> <td>○特例措置の全国展開のための検討</td> </tr> </tbody> </table> <p>●実証施設 ユニット型の特別養護老人ホーム(1施設)</p> <p>●実証内容</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 歩行機能訓練等のための移乗支援機器及び移動支援機器の活用 (2) 2ユニット1共同生活室とした中での移動支援機器の有効性の検証 (3) 歩行状態等の分析・報告のための ICT 支援機器の活用 (4) 歩行機能訓練等の効果測定のための見守り機器の活用 (5) 感染症予防に資する介護ロボットの活用方法の検証 	年度	実施予定内容	令和4年度	○国家戦略特区における特例措置を活用した効果の実証	令和5年度	○特例措置の全国展開のための検討
年度	実施予定内容						
令和4年度	○国家戦略特区における特例措置を活用した効果の実証						
令和5年度	○特例措置の全国展開のための検討						
<p>令和 3 年度 進捗状況</p>	<p>●実証施設(ユニット型特別養護老人ホーム)の選定(依頼済み)</p> <p>社会福祉法人 孝徳会 介護老人福祉施設 サポートセンター門司</p> <p>●実証場面の検討</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 歩行機能訓練内容を3つに分ける。 <ol style="list-style-type: none"> ①車椅子利用者の下肢訓練 ②起立訓練 						

<p>令和3年度 進捗状況</p>	<p>③歩行訓練 (2)歩行機能訓練効果を下記の内容で比較する。 ①1ユニット1共同生活室 ②2ユニット1共同生活室 ①と②において歩行支援機器利用と介護ロボット等利用で比較</p> <p>●実証対象者の検討 下記の要介護度認定調査項目(要介護認定 介護認定審査会委員テキスト 2009 改訂版 P6 より抜粋)の中から点数が高いグループ、低いグループで場合分けし、機器を使った実証を行う。 (1)1-6 両足での立位保持 (2)1-7 歩行 (3)1-8 立ち上がり (4)1-9 片足での立位</p> <p>●実証対象機器の検討 実証に適した移動支援機器、ICT 機器、見守り支援機器等を選定中。</p> <p>●実証指標の検討 厚生労働省委託の介護ロボット等の効果測定事業等で使用されている指標を準用して作成する。また、訓練量の増加等も指標に加える。</p>
<p>目 標</p>	<p>●実証から得たい成果 (1)介護ロボットの自立支援における有効性 (2)2ユニット1共同生活室とした場合の介護ロボットの有効性 (3)ICT 機器を活用した歩行機能訓練の計画策定・情報共有や家族へのデータに基づいた説明方法の確立による職員の負担軽減 (4)見守り機器の活用による歩行機能訓練等の効果測定方法 (5)自立支援及び感染症対策としての介護ロボット・ICT の有効活用のためのプロセスの作成・提示</p>

取組名	北九州モデル(従来型多床室施設バージョン)の確立
目的	<p>○本市は政令指定都市で最も高齢化が進んでおり、介護人材不足への対応が喫緊の課題となっている。</p> <p>○本市では平成28年度からの実証をもとに、ICT・介護ロボット等を活用した介護現場の業務改善モデルとなる「北九州モデル」を構築した。</p> <p>○仮説「北九州モデル」を立案し、効果確認を行った最終実証は、ユニット型施設で行われたため、従来型多床室施設における働き方の確立することを目的とする。</p>
内容	<p>○北九州モデルの導入支援先として多床室施設も対象とし、支援を通じて働き方を確立する。</p>
令和3年度進捗状況	<p>○支援先 北九州モデルの導入支援先5施設のうち1施設 (5施設の内訳) A 法人:ユニット型1施設 B 法人:ユニット型1施設 C 法人:ユニット型2施設、多床室1施設</p> <p>○結果 同一法人のユニット型1施設を先行して支援してほしいという法人の意向により、多床室施設は調査フェーズのみ実施した。</p>
目標	<p>○令和4年度も実践フェーズまで支援を継続し、多床室施設における北九州モデルを基にした働き方を確立する。</p>

(R3以降) 先進的介護「北九州モデル」の展開等による感染症に強い介護現場づくりに向けたロードマップ(案)

番号-○番号：取組の 카테고리別 ↓		令和3年度	令和4～5年度 ★印は令和4年度実施予定	令和5年度末の状況	令和6年度以降の 方向性
感染症に強い介護現場づくり	介護データの分析・活用 3-①	<ul style="list-style-type: none"> ●当事者団体等と連携した北九州モデルのプロモーション活動 ●介護データを活用した「予測型介護」に関する取組の方向性の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ●北九州モデルのプロモーション・ブランディング強化(データ収集の加速化・国への発信) ★予測型介護(決定テーマ)に関する分析・研究 	<ul style="list-style-type: none"> ●北九州モデルのブランド確立 ●予測型介護の研究推進(一部成果を地域に還元) 	<p>業務引継ぎ (予測型介護に関する関与のあり方等について検討)</p>
	遠隔・非接触を推進する働き方の確立 3-②	<ul style="list-style-type: none"> ●施設運営上の感染リスク分析及び有効策の検討 ●感染症予防に資する働き方の仮説立案 	<ul style="list-style-type: none"> ★施設における実証・評価 ●当事者団体等と連携した施設への活用支援 ●研修会の開催 		<p>事業廃止 (当事者団体等による自主的な運用)</p>
	施設環境を対象とした感染制御に関する研究 2-①	<ul style="list-style-type: none"> ●施設における換気対策の実効性に関する調査・評価 ●換気対策を含む施設内の浄化等に関する課題及び有効策の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ★ガイドライン等の作成 ★当事者団体等と連携した施設への周知・普及 	<ul style="list-style-type: none"> ●取組みの成果を施設に還元 	<p>事業廃止 (必要な機能はFAIS本体事業に取り込み)</p>
北九州発のロボット製品化	介護現場のニーズに沿った介護ロボット等の開発・改良 1-①	★北九州モデルの横展開に資する現場ニーズに沿ったロボット関連技術の開発・改良		<ul style="list-style-type: none"> ●北九州発のロボットの製品化実現 	<p>事業廃止 (必要な機能はFAIS本体事業に取り込み)</p>
	介護施設が取り入れやすい介護ロボット等導入の仕組みづくり(リース、サブスクリプション等) 1-②	<ul style="list-style-type: none"> ●ロボット等供給の現状把握 ●施設が求める供給形態の調査 ●導入の仕組みづくりに向けた調査・研究 ●民間企業を含む関係機関との協議 	<ul style="list-style-type: none"> ★関係機関・企業との協議・交渉 ★導入の仕組みづくりに関する具体化の検討(民間のビジネスモデル等) ●国等への提案 	<ul style="list-style-type: none"> ●導入の仕組みの具体化 	<p>民間のビジネスモデルに発展</p>
北九州モデルの展開	市内特別養護老人ホームへの北九州モデルの展開 1-③	<ul style="list-style-type: none"> ●北九州モデル導入施設等への支援 ●北九州モデルガイドライン等の仕上げ・映像ツールの作成 ●介護ロボットマスター育成講習の開催(人材育成) ●外部人材活用のための環境づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ★北九州モデル導入施設等への支援 ★介護ロボットマスター育成講習の開催(人材育成) ★外部人材の活用促進 	<ul style="list-style-type: none"> ●市内特養における北九州モデルを含む業務改善の推進(実施率50%以上) ●北九州モデルの導入支援ノウハウの確立(支援実績・好事例の蓄積) ●専門人材の確保(市内特養における1人以上の配置) 	<p>業務引継ぎ (相談支援拠点の運営のあり方等について検討)</p>
	北九州モデル(従来型施設バージョン)の確立 3-③	<ul style="list-style-type: none"> ●多床室施設における北九州モデルを基にした働き方の確立 ●北九州モデルガイドライン等への反映 			
	施設系介護サービス(老健・GH等)における介護ロボット等を活用した職場改善の推進(対象拡大) 1-④	<ul style="list-style-type: none"> ●生産性向上に資するガイドライン(厚労省作成)等を活用した施設への支援 ●関係団体との協同による好事例の収集 ●介護ロボットマスター育成講習の開催(人材育成) 	<ul style="list-style-type: none"> ★生産性向上に資するガイドライン(厚労省作成)等を活用した施設への支援 ●好事例集の作成・周知 ★介護ロボットマスター育成講習の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ●市内の老健・GH等の施設における改善活動の推進(当事者団体の活動支援) 	<p>当事者団体による自主的な活動への展開</p>
	介護施設が生産性向上に取り組む上で、円滑な業務運営を行うための環境づくり支援	<ul style="list-style-type: none"> ●関係機関との協議による地域課題の絞り込み ●課題解決に向けた調査・研究 	<ul style="list-style-type: none"> ★地域内における新たなルールづくり ★ルール運用の試行・評価 ●研修会の開催 ●新たなルール運用の活用支援 	<ul style="list-style-type: none"> ●優先課題の解決 ●運用に向けた当事者団体への支援 	<p>業務引継ぎ (運用に関する必要な調整等)</p>